

IOC(岩切おもしろ倶楽部)役員会資料

第 10 回小さなお話会開催レポート

IOC (岩切おもしろ倶楽部) 嘉藤和男

1. 日時：2024 年 7 月 19 日（金）
13 時 30 分～15 時 30 分
2. 場所：岩切市民センター第 1・第 2 研修室
3. テーマ：アメリカに渡って 22 年
4. 講師：鈴木 聰 氏
5. 聴講：会員 33 名 スタッフ 10 名 計 43 名
6. 講師プロフィール
 - ◆ 昭和 46 年岩切生まれ
 - ◆ 岩切小学校・東北学院中学校高等学校・東北学院大学卒業後、東仙台中学校・常盤木学園等で教鞭
 - ◆ 2002 年渡米現在米国カルフォルニア州ヘイワード市在住
 - ◆ 当倶楽部役員の鈴木健治氏は実父



この企画は、鈴木聰氏が夏季休暇を利用してご家族で一時帰国された折、当倶楽部からのリクエストにより“小さなお話会”講師をお引き受けいただき実現したものです。

当日は気温が上昇し真夏日となるなか、会場は大勢の町民で埋まりました。子供の頃をよく知っている「あの聰君に早く会いたい」と、開会を今や遅しと待ちきれないといった様子の出席者も多く見られ、いつになく和やかな雰囲気のなかでお話会がスタートしました。

渡辺敏之当倶楽部会長の挨拶の後、この日の会場となった岩切市民センターの登嶋紀行館長から、「鈴木さんとは昔、東仙台中学校で一緒に飲みにも行った仲です。今回のお話会のポスターを見て、もしかしたら聰先生なのでは？」と思いながら今日を迎えました。間違いなくその時の鈴木聰先生でした。二十数年後にこのような形でお会いすることは…」とご挨拶されたのを聞き、主催者側の私ではありましたが、こんなにも多くの偶然が重なったことに本当に驚かされました。

お話会が始まるとすぐに、鈴木氏は「私に何か質問ありませんか？」と切り出されました。お話会の冒頭に質問を受けること、これは結構ユニークなことで、「はて？」と思いましたが、これで“聞き手”と“話し手”が一瞬にして一体となり、なるほど、こういうことだったかと、すぐに腑に落ちた私でした。

その時に出された質問は「普段の暮らしに関するここと」から「政治問題」まで多岐にわたり、「英語に方言はあるの？」とか「銃は持ってる？」といったことまで、出席者からこれ

ほど多くの質問が出されたことにも驚かされ、それだけ今回のお話会を楽しみにされていたのだなあと嬉しくも思いました。



鈴木氏のお話は、その一つ一つが興味深く、渡米されたばかりの頃の苦労話から、今従事されている仕事の話、大富豪からお隣さんまでの交友録、恋愛事情、教育問題、チャットGPTを使った英語の勉強方法、LGBT、移民問題、医療費や物価問題などなど、様々なことについて、時には日本と比較しながら、そして面白おかしくお話し下さいました。約90分近くのお話でしたが、あっという間だったというのが正直のところで、もっと聞いていたいといった会場の空気を抑えるのに苦労するほどでした。

冒頭、鈴木氏は渡米のきっかけについて、それは「目がハートになったから」と説明されました。これはどのようなことなのか、今回出席された方は当然理解されたことと思いますが、このレポートではあえて触れないでおこうと思います。何年後になるかは今のところ不明ですが、次回鈴木氏帰国の際には、またこのような機会を設けたいと思います。その折には是非ご出席いただき「目がハートとは？」どのようなことなのかについてご自身でお確かめいただきたいと思っております。

鈴木聰氏ご一家は、7月末無事にヘイワードのご自宅に帰られたと聞いております。つかの間の日本ではありましたが、満喫されましたでしょうか。どうかお元気でお過ごしいただきますようお祈り申し上げ、このレポートの締めくくりとさせていただきます。

以下、今後の参考として、お話会当日の出席者からの意見を紹介します。

- ① 会場には和やかな空気が流れていて聞きやすかった。
- ② 講師の個人情報もオープンに語られるなどしたため、ついつい話の中に引き込まれた。
- ③ クスっと笑える話題もあって、時間を忘れて聞くことができた。
- ④ 最初に「私に質問は？」と聞かれたので、自分の関心事について的確に知ることができた。
- ⑤ アメリカの抱える問題点を、遠い
よその国の事としてではなく、身
近な事として捉えることができた。
- ⑥ 日本のすばらしさを改めて感じ
ることができた。
- ⑦ 語られた“英語の勉強方法”は目か
らうろこであった。
- ⑧ もっと聞いていたかった。このよ
うな機会をまた作ってほしい。

